

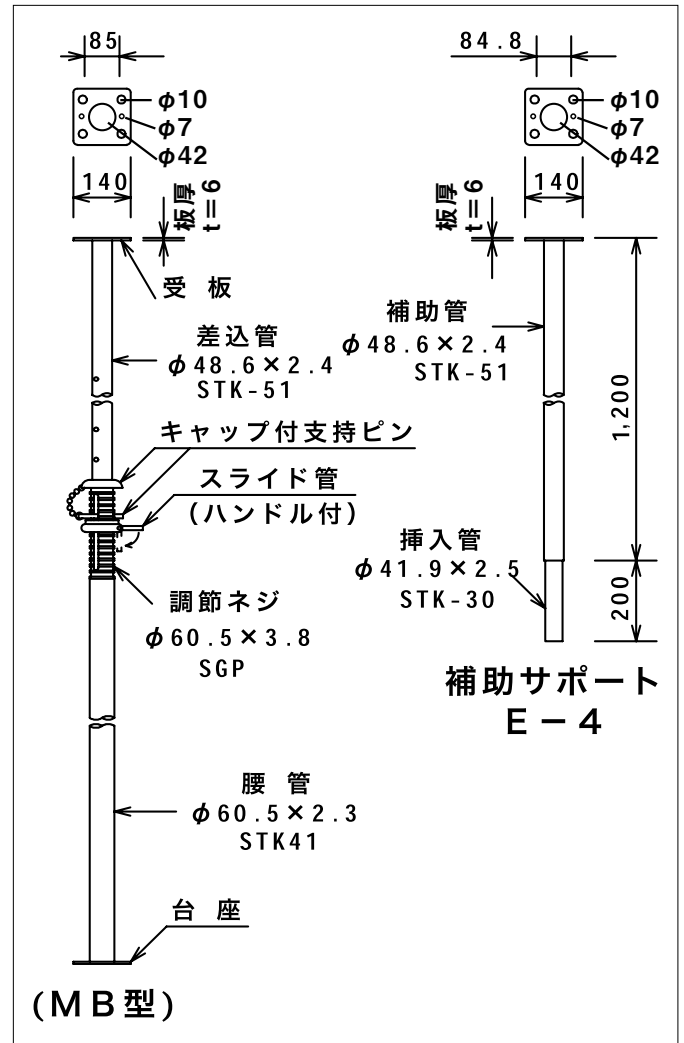
# 4 型枠鉄筋工事に用いる仮設材

## 4・1 支保工材

### [4・1・1] パイプサポート

#### ■仕様・規格

規格	最小	最大	調節範囲 (mm)	重量 (kg)
MB-9	2,576	3,940	1,364	15.3
MB-7	2,121	3,485	1,364	14.2
MB-4	1,210	2,120	910	9.9
MB-3	910	1,520	610	8.6
MB-2	600	1,008	408	7.0
E-4	1,200	—	—	5.1

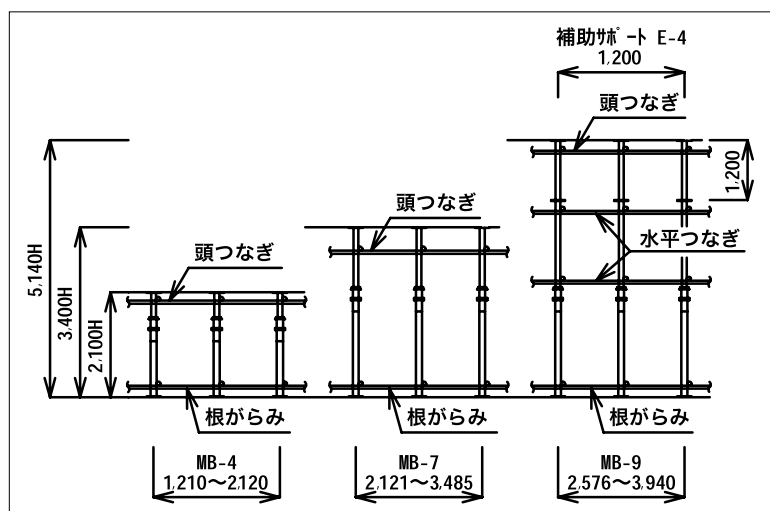


規格	使用長さの応用範囲 (mm)	使用強度 (kN)	使用条件
MB-9	階高 4,150 以下のスラブ下及び、2,800 以上の梁下、開口部に施工出来る。	19.6kN 以下	(1)使用長さ 2,400mm 以上の場合には中間つなぎを設ける。 (2)中間つなぎを設けない場合の使用強度 MB-9： 9.8kN 以下 MB-7： 14.7kN 以下
MB-7	階高 3,700 以下のスラブ下及び、2,350 以上の梁下、開口部に施工出来る。	19.6kN 以下	
MB-4	2,300 以下、1,350 以上のスラブ下又は、開口部窓下に施工出来る。	19.6kN 以下	つなぎ不要

## [4・1・2] パイプサポート資料

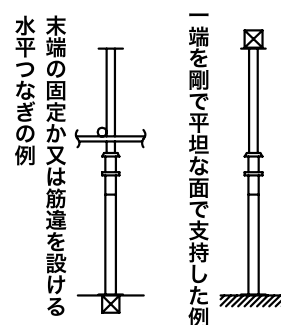
### つなぎ材のとり方

- ・2.4m 未満の使用長に対しては許容荷重 19.6kN を限度として扱う。
- ・3.5m 以上の使用長に対しては許容荷重 19.6kN を限度とし、高さ 2m 以内ごとに水平つなぎを直角方向に設け、かつ水平つなぎの変位を防止する措置を講ずる。
- ・補助サポートを使用の場合は許容荷重 7.4kN を限度として扱う。



### 許容荷重

サポート 使用長 (m)	普通使用状態における 使用長別許容強度 (kN)		一端を剛で平坦な 面で支持の時(kN)
	水平つなぎ (無)	水平つなぎ (有)	水平つなぎ (無)
3.4	9.8	19.6	14.7
3.3	7.4	以下 同様に 扱う	15.2
3.2	11.8		15.7
3.1	12.7		16.2
3.0	13.7		16.7
2.9	14.7		17.2
2.8	15.7		17.7
2.7	16.7		18.1
2.6	17.7		18.6
2.5	18.6		19.1
2.4	19.6		19.6



### ■使用上のご注意

1. パイプサポートを継いだとき、衝撃のかかるとき、偏心荷重のおそれのあるときは振り止めブレースを設けて下さい。
2. パイプサポートの受板には一様に荷重をかけ、偏心荷重を起こさないようにして下さい。
3. パイプに凹みを生じたものは取り替えて下さい。
4. 火入れ修理は強度が落ちて危険です。
5. パイプサポートと木製併用は荷重が一定しない恐れがありますので注意して下さい。
6. 点検
  - A 受板、台板の曲がり
  - B パイプの曲がり、凹み、傷
  - C ピンの曲がり
  - D ネジ管の傷
  - E 部品の状況
7. 階段、梁のハンチなどの部分で、パイプサポートを斜めにして建て込む場合には、サポートの頭部又は脚部にキャンバーを用い、かつ根がらみ等を取り付けて安定させて下さい。
8. 高さ 7m 以上（パイプサポートの 2 本継ぎをこえる長さ）の支保工を必要とする場合には、原則としてサポート 1 本分の高さを残して、枠組その他によって構台を組み、その上にパイプサポートを設置して下さい。
9. パイプサポートは 2 本以上継いではならない。

